

久留米大学を受診した患者さんへ

「播種性非定型抗酸菌症(*Mycobacterium intracellulare*)症例の検討」の研究に使用する試料（情報）について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料（情報）を使用します。

- 1) 期間：2016（平成 28）年 3 月から 2016（平成 28）年 4 月
- 2) 受診科：感染制御科 救急救命センター（外科）
- 3) 対象疾患名：播種性抗酸菌症（*Mycobacterium intracellulare*）
- 4) 使用する試料（情報）：（診療情報、細菌学的検査結果等）

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：感染制御学講座

研究責任者：感染制御学講座	教授	渡邊	浩
研究分担者：感染制御学講座	助教	八板	謙一郎
：高度救急救命センター	助教	秋吉	寿
：高度救急救命センター	助教	中江	一朗
：高度救急救命センター	助教	川崎	優二
：整形外科学講座	助教	仲摩	憲次郎
：感染制御学講座	講師	升永	憲治
：病院薬剤部	副主任	酒井	義朗

2) 研究の意義と目的：非定型抗酸菌症は元々呼吸器感染症としての報告が多いですが、近年免疫抑制状態にある症例を中心に全身に播種する症例が本邦でも散見されます。また治療についても内服薬だけでなく外科的処置が必要になる例も存在します。ただし、いまだ報告は少なく、症例報告を集積することは、今後の診療に非常に教育的なものと考えられます。今回の症例は 2016 年 3 月に上記非定型抗酸菌症（*Mycobacterium intracellulare*）の播種性感染症と診断された方です。文献的考察（どの程度の易感染状態が問題になるのか、またそれ以外の発症、死亡に関するリスクファクターの検討）を行うことで、その早期診断、的確な治療の探求を行うことが目的です。

3) 研究の方法：診療情報の後ろ向きレビュー、また類似症例の文献レビューを行います。その集積した症例集から前述の発症、死亡のリスクファクターについて検討します。

4) 研究期間：平成 28 年 10 月倫理委員会承認後～平成 30 年 9 月 31 日

5) 上記の試料（情報）の使用を選定した理由：非定型抗酸菌症（*Mycobacterium intracellulare*）の播種性感染症症例という理由からです。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：名前、イニシャル、住所、正確な入院の日付について記載はしません。

7) 研究成果の発表の方法：学会や論文形式で発表します。

8) 利益相反：特定企業からの資金援助はありません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

（代表者氏名）久留米大学病院感染病学講座 助教 八板 謙一郎

（住所）久留米市旭町 67

（TEL）0942-35-3311（FAX）0942-31-7826